

一般質問

(2〜5ページ上段まで)

市議会定例会では、提出された議案を審議するほかに、一般質問として、各議員が市政全般に対して質問することができます。今回は19人25件の一般質問がありました。

(他はその他の質問)

歴史ある道の名称
御茶屋街道を復活させる考えは

観光、歴史等の視点から
今後、研究していきたい



▲御茶屋街道の由来碑

林 辰男議員 サントリーや御売センターの前のふるさと通りの東側は、一部歩道が整備されていない。
この道路は、水と緑のネットワークの拠点「金塚」に通じる重要な道と考える。
そこで、この道を整備する計画があるか聞きたい。
市長 都市計画道路の整備計画や健康センター、郷土の森一帯を水と緑のネットワークづくりの拠点として整備する計画に取り組んでいるので、これらの計画にあわせて検討していきたい。
議員 また、この道はかつて徳川家康、秀忠が鷹狩や鮎漁で、府中を訪れた際、宿泊や休憩をした府中御殿での茶の湯の水を多摩川から運ぶ道であった。御茶屋街道の名は、このことに由来していると聞く。このような歴史ある道の名称を、復活する考えは。
都市建設部長 観光、歴史文化などの視点からも御茶屋街道の名前の復活を今後研究していきたい。
他 観光資源として三千人塚の整備を

神社境内地の観光トイレ等は
特定の宗教の利益にならないか

トイレ設置は参拝客のみでなく
府中を訪れる観光客のため

村井 浩議員 市内には、多くの神社、仏閣があり、また郷土の森を始めとして芸術劇場などの市の施設がある。
挙げればきりが無いほど府中市には観光資源がある。
府中市の観光事業が、大國魂神社の例大祭に寄りがかったような観光行政ではないかと思う。

もっと大きく府中市のイメージを高め、市民が誇りに思う観光行政を願っている。
そこで、市の観光振興計画があれば聞きたい。
また、神社の境内地に観光トイレ、観光案内所を作ることとは、特定の宗教に利益を提供することにならないか。
生活文化部長 観光施策の推

自治基本条例の必要性
市の認識は

市民の意向を把握し
今後、研究していく

村崎 啓二議員 市は、「市民との協働による美しく風格のあるまちづくり」に向けた政策を展開している。今後、これを安定的に推進するには、

府中市文化芸術振興条例
制定の考えは

府中市文化振興計画の策定の中で
その必要性を検討したい

遠田 宗雄議員 心豊かな社会の形成には、文化芸術の役割が重要不可欠と思う。
更なる文化芸術振興のため、その位置付けや、理念、そして基本方針を明確にする目的で、「府中市文化芸術振興条例」の制定が必要と思うが、市の考えを聞きたい。

また、市の文化芸術の振興を図るための協議会の設置や、市民に対して助成制度等をアドバイスできる、利用者相談窓口を設置することについて、市はどう考えるか。

市長 現在、府中文化振興計画の策定を目指しており、その検討を進める中で、条例化の必要性を検討していきたい。

生活文化部長 文化振興計画の策定に向け、今後、他市の状況等の調査研究を進めるとともに、市民参加の協議会を設置するなどしていきたい。

また、相談窓口の設置は、庁内及び府中文化振興財団等との連携を含めて、そのシステム化を図れるよう検討していきたい。

市政の基本理念、組織等を法的に明確にした政策法務の確立が求められていると思う。
そこで、分権時代の自治体の理念、組織、運営の基本原則を定める自治基本条例の必要性についての市の認識は。
また、政策立案時に、その案を公表し、市民等から意見を求め、それを考慮し最終的な意思決定を行うパブリックコメント制度の導入時期は。
市長 現在、市民との協働によるまちづくりを進めており、その基本的な枠組みを明らかにする必要があると考えるが、条例の必要性は今後市民の意

路上・河川敷生活者への支援
市の考えは

多摩全体での支援策を都に要望
この計画に沿って取り組む

高野 律雄議員 倒産や失業等で職を失い、路上や河川敷での生活を余儀なくされている問題である。
問題解決には、路

市が抱える社会的問題である。
問題解決には、路



▲多摩川河川敷

向を把握し、先進市の状況をも踏まえ、研究していきたい。
総務部長 本市では、パブリックコメントを制度化していないが今後、先進事例を研究し、実施に向け検討していく。
他 安心安全のまちづくりに向けて(防災情報システム導入など)

る人が増えていることが全国的な問題となっている。
本市でも、多摩川河川敷を中心に多くの人が生活をしており、一部の人は、定住傾向にあるように見える。
また、最近の調査では、市内に、106人が確認されていると聞く。
そこで、市は路上生活者等に対して、どのような考え方と問題意識を持っているか。
市長 路上生活者は、個人的要因や、倒産、リストラなどの経済的要因で、職や住居を失い、生活に困窮した人であり、大都市が抱える社会的問題である。
問題解決には、路

上生活者自身の自助努力はもとより、社会全体で取り組むべきものと考えている。
本市としては、都に対して、多摩地域で統一的な支援策を盛り込んだ計画を策定するよう要望しており、その計画に沿って、問題解決に取り組んでいきたい。

高齢者、障害者等の対策
バス停等にベンチの設置は
現状を調査し
設置が可能な把握していきたい

備 邦彦議員 市は、福祉計画を策定し、高齢者、障害者等を思いやる心のバリアフリーにも力を入れていく必要があると定めており、それに沿ってバリアフリー化を進めているところである。
また、昨年12月から市内各所にコミュニケーションバスが運行するようになり、市民

等から大変喜ばれている。
しかし、高齢者や障害者等が、バス停に着いても、バスが来るまでの間は立っている必要がある。長時間だと健康者でもつらいときがある。
以前にも、高齢者、障害者等の対策としてバス停等へのベンチの設置について、一般質問をしたが、市の考えを聞きたい。
都市建設部長 ベンチの設置については、高齢社会に対応した柔軟な規制に変わりつつある状況と考えている。
今後、現状調査とあわせて、設置が可能なかどうか把握していきたい。
他 NPO法人への支援について



▲ほっと一息

また、昨年12月から市内各所にコミュニケーションバスが運行するようになり、市民